



## 今月の主な目次

- 食品副産物(エコフィード)の利用と経済性について
- トウモロコシお勧め品種のご紹介
- 需要喚起「実証圃場」調査での取り組みのご紹介
- 「こうし応援団」のご紹介 ～子牛の健康維持に～

## 時の話題

## 21年を振り返って

日頃より弊社製品・商品をご愛顧頂き厚く御礼申し上げます。

当社は、平成20年4月に雪印乳業の100%子会社になり1年半を経過いたしました。今年10月には雪印乳業と日本ミルクコミュニティが統合し雪印メグミルク株式会社が誕生し、当社は従前以上にシナジー効果を発揮できる体制へと変わりました。

平成20年は、前年から続いた飼料の高騰を始めに、生産資材の高騰も伴い畜産経営を圧迫する環境下が続きましたが、今年1月以降は飼料の値下げ環境に一転し、酪農においては3月より乳価の期中改訂が行われ値上げとなりました。

しかし、昨今の乳製品の国際市況下落や国内消費の低迷・環境への変化に伴い、10月には乳価の期中値下げが行われ激動の1年となりました。

また、肉牛飼養農家においては牛肉市況の低迷が長期化し、飼料の値下げ分を補完できない状況が続いております。

今年、地球温暖化による世界的な異常気象により、砂漠地帯では少雨の影響から砂漠化が更に進み、地域によっては集中豪雨等による洪水の被害等が報じられております。

道内においては、天候不順の影響からトウモロコシを始めとした飼料作物全般が不作の状況となり、特に海岸沿いの地域では収量の低下や刈り遅れによる栄養価の低下等で畜産経営への影響が危惧されます。

今冬の粗飼料不足や栄養不足が懸念され、強いては繁殖障害等の疾病の発生も予想される事から、今一度飼養管理の見直しと栄養管理の徹底を希望する所です。

## ◎ 粗飼料不足への懸念

道内全般に、自給粗飼料の不足が危惧されており、特にトウモロコシでは熟期の未到達や減収等を、当社の営業所より報告されております。

当社では、それらの報告を受け道央地域・道東地域において、粗飼料不足対策用飼料として各種製品や単味を取り揃えておりますので、最寄の営業所へお気軽にお尋ね下さい。

## ◎ 良質粗飼料の確保に向けて

現在、当社では平成20年度より酪農家皆様のご協力を頂き、雪印乳業と共に自給飼料の実証圃場を道内各地に10ヶ所を設置し取り組みを進めております。

アルファルファ(ケレス)混播による粗飼料栄養価の向上や、シードマッチック等を用いた簡易更新による植生改良、イタリアンライグラス他を利用しての農薬を使用しないシバムギ、リードキャナリーグラス等の匍匐系雑草対策等を実証しておりますので、最寄の営業所へのご相談をお待ちしております。

飼養管理に係わるご相談も行っておりますので、お気軽にお声を掛けて頂きたく宜しくお願い申し上げます。

平成22年も雪たねニュースを通して皆様のお役に立てる新しい技術情報や新しい商品・製品のご紹介など、より一層の充実を図って参りますので引き続きご愛読下さいます様お願い申し上げます。今年も大変お世話になり有難う御座いました。平成22年も家族共々輝かしい新春を迎えられます事を従業員一同切に願っております。

前年同様、相変わりにませぬご厚情をお願い申し上げます。

(北海道統括支店 取締役統括支店長 橋場 義孝)